

科 目 名	ソーシャルダンス	担当者名	青 柳 多恵子
-------	----------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>国際化が叫ばれて半世紀になった今日でも、ダンスは婦女子のするものという日本的な領域から脱皮できないでいる。西洋音楽が日常的にある現在、わずかなルールを身につけることによって音楽を楽しんで、その上、音楽を動けるとより楽しみはますますであろう。日常の話す聞く、表すといった中に、踊るが入るのは今やごく自然なことでしょう。普段の歩くことが音に乗って歩くだけなのです。歌をうたうことと同じように、ワルツを踊る。ごく自然に動けることの楽しさ知って貰うのが目標。</p>		
講 義 概 要	<p>ダンスは歩くこと。歌を憶える時に何度も聞いて声をだす。そして何回も繰り返して唄ってみる。ダンスも同じ繰り返しのエクササイズです。歩く次に音楽を聴く。音楽はワルツ・タンゴ・ルンバ・チャチャといったリズムのはっきりしたもの。ステップは3歩から始る。一番難しいテクニックとは右・左・右と交互に音楽に合わせて歩くことでしょう。一度憶えたら自然に体が動いてしまうように筋肉と脳に刺激を与え、心理的・身体的な充足感はもとより、ストレスの知的解消法の一つであり、また、生涯スポーツとしての導入の基礎として進めます。</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	テキストを配布	
	参 考 文 献		
評 価 方 法	ワルツ・ルンバを踊れるようになって貰います。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>ダンスシューズを購入のこと 出席を重視。男女同数で打ち切ります。</p>		

年 間 授 業 計 画	前期
	1. 授業の説明・VTR を使用
	2. 歩行とリズム.....ワルツ・マンボ
	3. 歩行とダンス・ステップの違い.....ワルツ（3拍子）・ブルース（4拍子） 拍子について
	4. 歩行とダンスのルール.....ワルツ（男子・女子の役割） チェンジステップ・ナチュラルターン・リバーターン
	5. リードとホローについて.....ワルツ・ルンバ
	6. ステップとアマルガメーションについて CS・NT・CS・RT.....ワルツ QT・QT・CS.....ブルース
	7. VTR によるダンスの解析.....ワルツ・ルンバ
	8. ラテン種目の導入.....チャチャ・サンバ
	9. サンバ
	10. クイックステップ・ジルバ
	11. ダンスのマナーについて
	12. 楽しく踊ることの大切さと外国のホームパーティでの踊る意味
	後期
	13. VTR でのステップ解説
	14. ワルツ.....ウィスク・シャッセ・ナチュラル・スピントーン チャチャ.....ファン・アレマナー・ニューヨーク
	15. タンゴ.....タンゴウォーク・プロムナードリンク サンバ.....ベイシック・サイドステップ・ボコステップ
	16. ワルツ.....ウィスク・ウィーヴ・スピントーン クイックステップ.....サイドステップ
	17. クイックステップ.....サイドステップ・フォワードロック・チェンジS ルンバ.....ベイシック・ファン・アレマーナ・ベイシック
	18. ルンバ.....ベイシック・ファン・フォッカースティック・ベイシック ワルツ.....NT・RT・F・W・SP
	19. ワルツ・タンゴ・クイック.....VTR
	20. サンバ.....アマルガメーション VTR
	21. ルンバ.....アマルガメーション VTR
	22. チャチャ.....アマルガメーション VTR
23. ワルツ.....アマルガメーション VTR	
24. タンゴ.....アマルガメーション VTR	

科 目 名	スケート/トレーニング	担当者名	青 柳 多恵子
-------	-------------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>トレーニングは基本的なスケート技術の習得を得やすくするための体力を作り、冬季のアイススケート・カーリング・アイスホッケーの実践を通して知識・技術を身につけ生涯スポーツの1つに開発する事を目標とする。</p> <p>アイススケートでは、基礎的なインラインスケートの技術を活かしながら、基本滑走、アイスフォクダンス、アイスダンス、アイスホッケーを通してホォアクロス、バッククロスが出きることを技術的な目標とする。</p> <p>カーリングでは、ゲームの楽しさを享受できる程度の技術・知識の習得を目標とする。</p>		
講 義 概 要	<p>インラインスケートでは、ソックスを持参のこと。</p> <p>インラインスケート、アイススケートともに未経験者の受講可能。</p> <p>インラインスケートに関わる用具は大学で用意。アイススケートのシューズについては、自分の靴を準備する事が望ましい。</p> <p>集中授業は必要経費（宿泊費・保険料等）として 40000 円をオリエンテーション時に大学証紙にかえて持参のこと。（現地集合・解散）</p> <p>期間（予定）           平成 11 年 12 月 18 日—22 日 4 泊 5 日</p> <p>場所                     軽井沢スケートセンター（塩壺温泉ホテル宿泊）</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	スケート教本・カーリング（ルールブック）	
	参 考 文 献		
評 価 方 法	出席状況・受講態度・技術の向上度による。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	カーリング・アイスホッケーは見ているより、実践したほうが、はるかに楽しいので是非とも参加し、楽しさを体験して下さい。		

年  
間  
授  
業  
計  
画

1. オリエンテーション・ビデオ視聴・理論
2. インラインスケート...靴の調整・安全注意・フォアストローク・ストッピング
3. フォアストローク、フォアひょうたん
4. 方向変換・フォアストロークからバックストローク
5. フォアひょうたん・片ひょうたん
6. 片ひょうたんからスネーク
7. バックひょうたん
8. バックひょうたんからバックスネーク
9. バックスネークからバッククロス
10. フォアからバック・バックからフォア
11. ターン...フアクロス
12. 集中授業について

科 目 名	スポーツエクササイズ	担当者名	青 柳 多恵子
-------	------------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>自己の心身の健康な生活を目標に体力を計測し、日常生活における健康を害する要素の認識と共に、次世代の健康をも視野にいたった考えを構築するため、真に健康であるための諸条件をとりあげる。堅甲であるための運動量・食生活・生活環境・自然環境とは如何なるものかまた、どのように、どれくらい、どんなものを、どのスポーツや、休息を計画していくのかと、与えられたものを、ただ行うのではなく、グループや個人でそれぞれに適したスポーツや動きを、立案・綿密な計画に乗っ取って実施する。広範囲にスポーツを研究し、年齢や性差、能力や経験を考慮し、教育や指導をも視野に講座を進める。地域や団体のリーダーを目指すもの、教職を志望する者に必要な、広範囲なスポーツを体験し、計画立案・実施体験・研究点検を行う講座。</p>		
講 義 概 要	<p>スポーツの特性を研究し、初心者や児童にいか安全により効率的に正確に、スポーツを楽しく導入していくか。とくに「安全・正確・楽しく」のための事前研究と指導を重要視地域スポーツ、学校スポーツ、レクリエーションスポーツ、日本古来の運動類、中国の太極拳ドイツのトリム、等々に含まれる健康のための運動を研究する。また子供に不可欠である間の意識に基づいた動きをまず体験し、その効果や健康への必要度を研究する。また、高齢化社会に備えて、幼児期・少年期・青年期・成年期・壮年期・老年期別の運動の必要度と意識について研究・実施計画・指導法までを範囲とする。</p>		
使 用 教 材	テキスト		
	参 考 文 献	<p>間中 喜雄著 「からだの設計にミスはない」  楊 名時著 「太極拳」  山地 啓司著 「心拍数の科学」  「心臓とスポーツ」  鈴木 正成著 「スポーツ健康学」  ネッド・ローレンス他著「健康・体力づくりマニュアル」  浜口 陽吉著 「生涯体育」</p>	
評 価 方 法	<p>出席とレポート・テストによる。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>教職課程をとる学生を優先する。真面目な意欲のある学生を望む。</p>		

年 間 授 業 計 画	<p>前期</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス(実施実技...トレーニング・太極拳・水泳・フォークダンス・ベタンク・マットストレッチ).....講義・実技の配分と、実験実技のグループ作成</li> <li>2. 子供の動作の分析とゲーム 1 道具を使用しないゲーム・道具(施設)を使用するゲームの導入と体験</li> <li>3. 道具を使わない、もしくは、道具を必要に応じて作り出してゲームをする。</li> <li>4. 年齢別「運動処方」の作り方と体力診断 体力診断実施...全国統一診断+エアロバイク+体脂肪測定。</li> <li>5. 食事と健康について。(太極拳の体験) スポーツをするときの食事。日常の食事のカロリー計算と運動量との関連。</li> <li>6. スポーツと怪我 救急法の実技と理論。テーピングについて。</li> <li>7. 水遊びと水中での動きの意味 幼児児童の初心者指導と水中筋肉訓練の体得。</li> <li>8. 水中でのリハビリテーション その効果と必要とする障害・注意事項。</li> <li>9. 集団の指導とイベントの計画 盆おどりとフォークダンス・体育祭の計画と実施</li> <li>10. 遊びの中の教育効果 キャンプの計画とその楽しみ方・寝食を共にすることの意味と効果。</li> <li>11. 災害時の対処法 サバイバルミニ体験</li> <li>12. まとめ。夏の行事の計画実施案づくり</li> </ol> <p>後期</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>13. 体力養成の意味とその実践(あらゆるスポーツを体験する) ストレスの対処法・基本的体力の計測とその養成方法</li> <li>14. カウンセリングについて 態度・表情・動き・気力に現れる変化を的確に把握することの重要性</li> <li>15. 教師サイドの体力・気力の及ぼす影響について 対象者と指導内容について(実技における多様性の必然を理解する)</li> <li>16. シーズンスポーツを考える。 環境変化の与える大きな力について。</li> <li>17. シーズンスポーツを考える。 自然の力の偉大さの享受と危険性の予測</li> <li>18. 実技の必要性和その内容 実技における教師の位置(教えることの易しさと楽しませることの難しさ)</li> <li>19. スポーツと法律 事故判例・管理について・事故とその対応。</li> <li>20. 生涯スポーツ 生命と健康にたいする考え方+動くことの重要性。</li> <li>21. 健康を増進させるための運動 年齢ごとの運動の実施と安全</li> <li>22. スポーツとセラピー</li> <li>23. 運動とクールダウン・マッサージ</li> <li>24. まとめ(指導・実施・安全・解放感・体力・健康)</li> </ol>
----------------------------	--

科 目 名	ソフトボール	担当者名	池 垣 功 一
-------	--------	------	---------

講 義 の 目 標	正しいソフトボールの理解と、技術を体得するとともに、チームプレーを通して人間性を養う機会とし、さらに、生涯体育の一環として、楽しく実践していく態度を身につける。		
講 義 概 要	前期の前半は個人技術中心の練習内容とし、後半からチームを編成して、チームごとの練習ならびに試合に移る。後期は試合を主とした展開となるが、適宜、チームごとにテーマを決めたチーム練習を加える。		
使 用 教 材	テキスト		
	参考文献		
評 価 方 法	評価は体育実技評価基準により、出席点に技能点、総合点（態度・努力・服装等）を加味して行なう。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	前・後期とも、雨天時およびグラウンド・コンディションの悪い時には、教室内でのビデオによる学習または空いている体育施設での実施に切り替えることがある。		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 年間スケジュールおよび履修上の諸注意と、ソフトボールの特質、ルール等について説明</li> <li>2. キャッチボール（ソフトボールに適したボールの握り方、フォーム） ピッチング（スリングショット投法）</li> <li>3. ピッチング（スリングショット投法の復習およびウインドミル投法） トスバッティング</li> <li>4. ピッチング（各種投法の復習） ハーフバッティング</li> <li>5. 守備練習（基本的なゴロと飛球の捕り方） フリーバッティング</li> <li>6. 守備練習（各ポジションの守備方法） シートノック</li> <li>7. ベースランニングおよびスライディングの練習 バント練習（内野手の連けいプレー）</li> <li>8. シートノックによる守備練習（ダブルプレーの練習） ゲーム形式のバッティング練習</li> <li>9. 審判の方法についての説明 チームの編成(1)（ポジション・打順を決める） 練習試合</li> <li>10. チーム練習（試合前の、シートノック） 試合 A～B、C～D</li> <li>11. チーム練習（トスバッティング） 試合 A～C、B～D</li> <li>12. チーム練習（バント） 試合 A～D、B～C</li> <li>13. 前期に学習した内容の総合的練習(1) 審判方法の復習</li> <li>14. 前期に学習した内容の総合的練習(2) スコアブックのつけ方についての説明</li> <li>15. チーム編成(2)（以下、各々試合3回ごとに編成をかえる） 練習試合</li> <li>16. チーム練習（毎週、チームごとにテーマを決めて実施する。以下同じ） 試合 E～F、G～H</li> <li>17. チーム練習 試合 E～G、F～H</li> <li>18. チーム練習 試合 E～H、F～G</li> <li>19. チーム編成(3) チーム練習 試合 I～J、K～L</li> <li>20. チーム練習 試合 I～K、J～L</li> <li>21. チーム練習 試合 I～L、J～K</li> <li>22. チーム編成(4) チーム練習 試合 M～N、O～P</li> <li>23. チーム練習 試合 M～O、N～P</li> <li>24. チーム練習 試合 M～P、N～O</li> </ol>
----------------------------	--



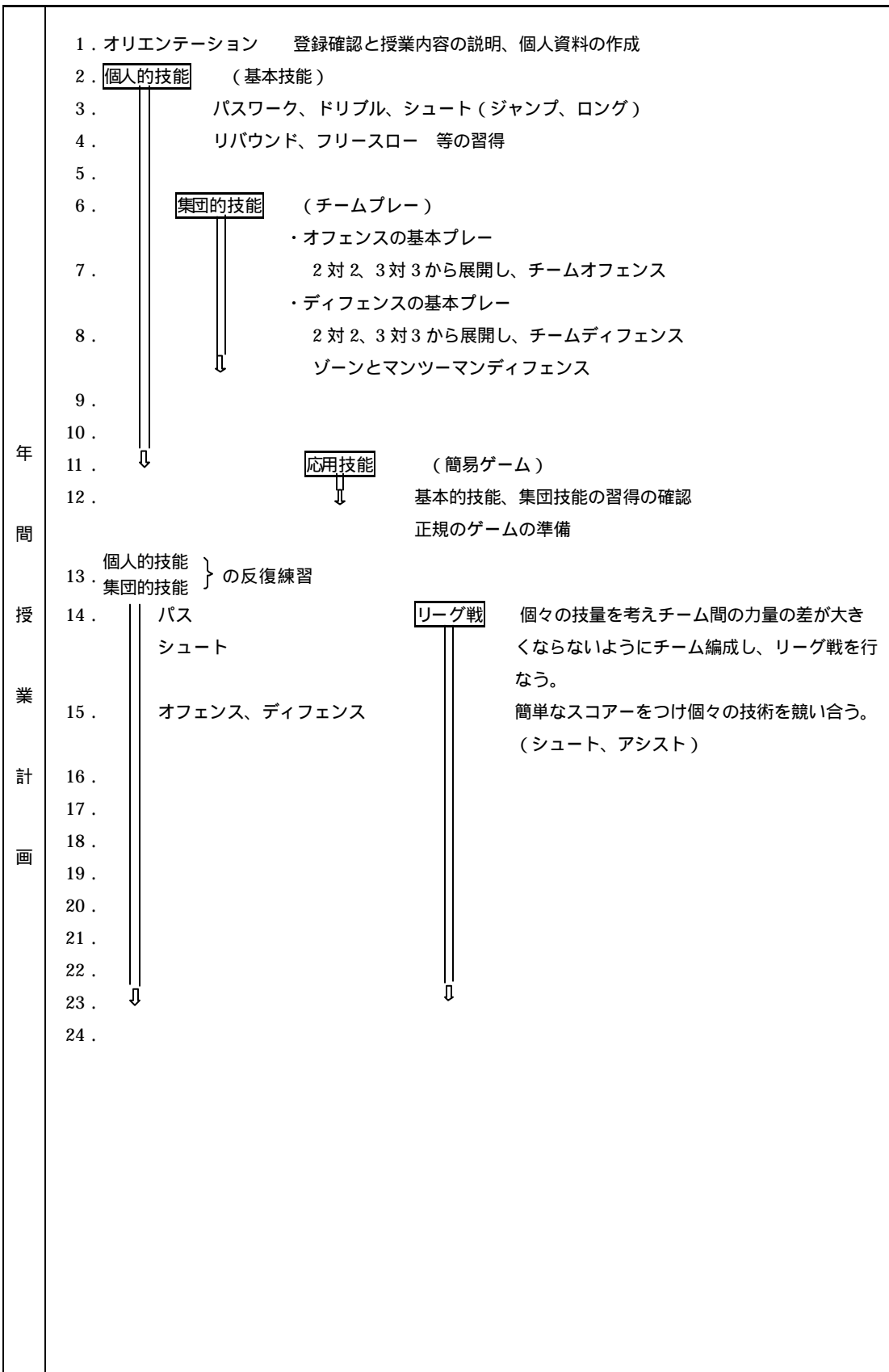
科 目 名	ソフトボール	担当者名	太 田 朝 博
-------	--------	------	---------

講 義 の 目 標	ソフトボールは、走る、投げる、打つ等の運動の基本的要素を持ち、スピード、正確さ、力、機敏さ、注意力、判断力、勇気等を基礎としたスポーツである。その基本技術を身につけ、互いに協力し合い、安全にスポーツを楽しみながら、体力の維持、増進の一助とすることを目標に行なう。		
講 義 概 要	個人的技能と集団的技能を交互に繰り返し、正しいスローイング、バッティング、キャッチングを身につけ、チームプレーに於ける連携プレーの習得を目指し授業を展開し、ゲームを通し攻守のプレーを個々に確認していく。		
使 用 教 材	テキスト		
	参考文献		
評 価 方 法	出席点を中心にして評価し授業態度、技能の進歩などを加味する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・個人的技能 捕球 送球 遠投</li> <li>・ゲーム結果（集団、個人技能）等を総合的に見て評価する。</li> </ul> 欠席時数7回以上の者に対しては、評価の対象としない。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど			

年 間 授 業	前期			
	1	個人的技能	基本技能 キャッチング	
	2		スローイング 1対1での正確な技能の修得 バッティング ノックとトスバッティング、 フリーバッティング	
	3		正確なキャッチングとスローイング、バッティングをしっかり身につける	
	4		ピッチング	
	5	集团的技能	連携プレー 攻撃 = バント及びヒットエンドラン	
	6		タッチアッププレー 守備 = フォースプレー	
	7		ダブルプレー バントの処理と各野手の動き	
	8		カバーリング あらゆるプレーに対するフォーメーション	
	9		ルールの解説とスコアのつけ方(ワンプレーに対する判定法)	
	10		簡易ゲーム 簡易なゲームを通し事前に練習したプレーの確認とルールの習得。	
	11			
12				
備考				
計 画	後期			
	1	個人技能 } 集团技能 }	ゲーム	・個々の技量を考えチーム間の力量の差が大きくなるないようにチーム編成し、リーグ戦を行なう。
	2			・簡単なスコアをつけ個々の成績 (打率、盗塁、打点など)を集計し成績を出し、技能
	3			を競い合う
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
	10			
	11			
12				
備考				

科 目 名	バスケットボール	担当者名	太 田 朝 博
-------	----------	------	---------

講 義 の 目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バスケットボールの特性や練習方法を理解し、個人的技能や集団的技能を養ない、各自の技能の程度やチームの力量に応じ、作戦を立てて、ゲームが出来るようにする。</li> <li>・チームとしての共通の目標をもち、相互に協力して、計画的に安全に練習やゲームが出来るようにする。</li> <li>・ゲームの計画や運営が自主的に出来、審判も出来るようにして、生涯を通して、運動を楽しむことが出来る能力や態度、習慣を身につけるようにする。</li> </ul>		
講 義 概 要	<p>個人技能と集団技能を交互に繰り返し、スピード感のある高度なゲームの展開が出来ることを目指して授業を進める。 ゲームでは簡単なスコアーをつけ、個々の技能を確認する。</p>		
使 用 教 材	テキスト		
	参考文献		
評 価 方 法	<p>出席点を中心として評価し、授業態度、技能の進歩などを加味する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個人的技能 シュート力、ドリブル技術、等。</li> <li>・ゲーム結果（集団、個人技能）等を総合的に見て評価する。 欠席時数7回以上の者に対しては、評価の対象としない。</li> </ul>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど			



科 目 名	バスケットボール	担当者名	小 川 又八朗
-------	----------	------	---------

講 義 の 目 標	バスケットボールのルールを理解し、個人的及び集団的技能を習得するとともにそれらをともした戦術を習得し、ゲームの展開方法を学習する。		
講 義 概 要	個人技能に習熟し自分の能力が集団の中でよく発揮できるようにする。そのためにはいつも集中して練習ができるように習慣づける。スピードあるいろいろな動きの中でも相手との攻防でタイミングを合わせ、からだやボールのコントロールができるようにする。チームがよくまとまり個人の特徴を生かした作戦が考えられ、それぞれの役割を果たすことができるようにする。技術や練習法を学びルールを理解し、授業などでも審判の判定を公正にできプレーヤーとしてもすなおに判定に従う態度がとれるようにする。		
使 用 教 材	テキスト		
	参 考 文 献		
評 価 方 法	出席点呼を毎回実施し出席点を中心に評価し授業態度（服装）技能の進歩などを加味する。欠席時数が多い者については評価の対象としない。交通機関及び体調等やむを得ない事由以外の遅刻は認めない。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	授業実施場所 体育館 AB コート、欠席遅刻はしないこと、服装は体育に適したものの。G パンは認めない、靴もゴム底の運動靴を使用すること。		

年 間 授 業 計 画	<p>1. オリエンテーション（体育館） 登録の確認と授業内容の説明、個人資料の作成等。</p> <p>2. 授業に関するオリエンテーション。 個人技能、（ボディーコントロール、ボールハンドリング、パス、ドリブルシュート）</p> <p>3. 個人技能、（ボディーコントロール、ボールハンドリング、パス、ドリブルシュート） 個人技能、（パス、ドリブル、シュート、リバウディング）</p> <p>4. 個人技能、（パス、ドリブル、シュート、リバウディング） 1対1の攻防、ハーフコート於てゲーム。</p> <p>5. 上記と同じ。</p> <p>6. 2対2の攻防、ハーフコート於てゲーム。 3対3の攻防、ハーフコート於てゲーム。</p> <p>7. 対人防御と対人防御に対する攻撃法、(1)ゲーム。 対人防御と対人防御に対する攻撃法、(2)ゲーム。</p> <p>8. 地域防御と地域防御に対する攻撃法、(1)ゲーム。 地域防御と地域防御に対する攻撃法、(1)ゲーム。</p> <p>9. リーグ戦形式によるゲーム。</p> <p>10. リーグ戦形式によるゲーム。</p> <p>11. リーグ戦形式によるゲーム。</p> <p>12. リーグ戦形式によるゲーム。 ゲームの攻防を通して攻撃貢献度をテストする。</p> <p>13. 前期の復習。 チーム再編成。個人技能（ボディーコントロール、ボールハンドリング、パス）</p> <p>14. 個人技能、（ボールハンドリング、パス、ドリブルシュート）</p> <p>15. 速攻攻撃法、(1)ゲーム。 速攻攻撃法、(2)ゲーム。</p> <p>16. 上記と同じ。</p> <p>17. 対人防御と対人防御に対する攻撃法(1)。 リーグ戦形式によるゲーム。</p> <p>18. 対人防御と対人防御に対する攻撃法(2)。</p> <p>19. 対人防御と対人防御に対する攻撃法(3)。 リーグ戦形式によるゲーム。</p> <p>20. 対人防御と対人防御に対する攻撃法(4)。</p> <p>21. 地域防御と地域防御に対する攻撃法(1)。 リーグ戦形式によるゲーム。</p> <p>22. 地域防御と地域防御に対する攻撃法(2)。 リーグ戦形式によるゲーム。</p> <p>23. 地域防御と地域防御に対する攻撃法(3)。</p> <p>24. リーグ戦形式によるゲーム。 まとめのテスト。</p>
----------------------------	--

科 目 名	卓 球	担当者名	小 川 又八朗
-------	-----	------	---------

講 義 の 目 標	卓球を通じて、運動をする習慣を身につけ、生涯体育として健康の維持増進をはかるとともに、卓球の基本動作、ルールなどについても勉強し技能の向上を計るとともに、社会生活の中でもそれらを活用できるようにすることをめざす。		
講 義 概 要	卓球についてのビデオを見て、基本練習を通じてラリーを続けられるようにし、集中力を養う。また、サービスとレシーブの重要性を理解させ簡単なゲームができること、審判ができるようにルールについても勉強していく、ゲームは、簡単なものから、個人ゲーム、ダブルスゲーム、団体対抗ゲームと進めていく。		
使 用 教 材	テキスト	なし。	
	参 考 文 献	特になし。	
評 価 方 法	評価は出席点を中心とし、技能の進歩の度合、平素の授業態度、特に服装の適否なども加味して行なう。 <u>尚欠席が7回以上の者は、評価はFとする。</u> やむを得ず欠席した場合はできるだけ早く口頭で届け出ること。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	欠席、遅刻はしないこと。 <u>服装は体育に適したものの、Gパンは認めない。</u> 靴も、ゴム底の運動靴を使用すること。用具については、大学で用意するが、ラケットはできるだけ各人で用意すること。		

年 間 授 業 計 画	前 期	
	1	授業登録の確認と、個人の資料作成、授業内容の説明。
	2	教室でビデオを見て、基本的知識を修得する。(予定)
	3	準備運動の実施方法、班別作成、ルール説明。
	4	シングルのゲーム(リーグ戦) 初心者は、基本練習。
	5	
	6	
	7	
	8	ダブルスのゲーム(リーグ戦)
	9	
	10	
	11	
	12	全員を抽選により、トーナメント試合。
	備考	
	後 期	
	1	トーナメント試合。
	2	
	3	
	4	グループを作り、対抗のリーグ戦を実施。
	5	
	6	
	7	
	8	シングルス及び、ダブルスゲーム。
	9	
10		
11		
12	技能テスト。	
備考		



科 目 名	卓 球	担当者名	奥 野 忠 枝
-------	-----	------	---------

講 義 の 目 標	<p>卓球という球技をとおして、技術の向上はもとより、ゲームをたのしみながら、ルール、試合方法、審判法を学ぶ。</p> <p>ダブルス競技においては、チームワークを体験することによって、協力の態度を養う。</p>	
講 義 概 要		
使 用 教 材	テキスト	
	参 考 文 献	
評 価 方 法	<p>評価は出席点を重視し、平素の授業態度、技能の進歩を加味し実施する。欠席はできるだけ届け出ること。</p>	
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業登録の確認 授業内容の説明と諸注意 個人資料の作成</li> <li>2. 競技場と用具について（準備と片付け方） ラケットの種類、持ち方</li> <li>3. ボールの打ち方 ラリーの連続を行う。 ミニ試合</li> <li>4. サービス、レシーブの練習 ミニ試合</li> <li>5. バックハンド フォアハンドの練習 シングルス試合方法と試合</li> <li>6. サービスについて ボールの回転とラケットの動きを練習 シングルス試合</li> <li>7. 審判法について学ぶ</li> <li>8. ダブルス競技のルールを学ぶ ダブルスミニ試合</li> <li>9. グループでリーグ戦形式のダブルス試合</li> <li>10. 上記に同じ</li> <li>11. シングルス試合</li> <li>12. 前期のまとめ シングルス試合</li> <li>13. 前期の復習 基本の動き シングルス試合</li> <li>14. カットについて学ぶ シングルス試合</li> <li>15. マナーについて 悪いマナー 良いマナー</li> <li>16. ダブルスの作戦とパートナーとの動きについて</li> <li>17. グループでダブルスの試合</li> <li>18. 上に同じ</li> <li>19. 上に同じ</li> <li>20. 上に同じ</li> <li>21. シングルストーナメント試合</li> <li>22. シングルス ダブルスにわかれて試合</li> <li>23. 総復習</li> <li>24. 総復習と反省</li> </ol>
----------------------------	--

科 目 名	硬式テニス	担当者名	小 俣 充
-------	-------	------	-------

講 義 の 目 標	テニス、(シングルス)をどのように理解し、どのような目標を設け、どのように取り組むのかを確め、必要とする練習に徹底的に取り組む習慣を身につける。		
講 義 概 要	サービス・ストローク・ボレーについての多岐にわたる基礎を簡潔にまとめ、繰り返し練習する。またゲームでの心理(対プレッシャー)を分析し精神的なよりどころを探す。後期に埼玉オープンを見学。		
使 用 教 材	テキスト		
	参 考 文 献	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本プロテニス協会編「ベスト・テクニク・テニス」学習研究社</li> <li>2. ロバート・S・ワインバーグ「テニスのメンタルトレーニング」大修館書店</li> <li>3. 稲垣正浩「スポーツを読む」三省堂</li> <li>4. W.T. ガルウエイ「インナーゲーム・インナーテニス」日刊スポーツ出版社</li> </ol>	
評 価 方 法	出席回数をベースにし、自分の課題にどれほど集中し努力したかによって評価		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>受講条件 1. 経験者(初級)のみ受講可。初級の具体的な目安は選択・登録時に表示。</p> <p>2. 実力が中級と判断した受講者は2限目の受講とすることがある。</p>		

前・後期とも受講者の実態と進歩の状況により、次ぎのテーマを順次取り上げる。また個々のプレーを映像でとらえ、研究する。

1. 身体の構えと加重
2. 身体の軸と身体の動き
3. フットワーク
4. グリップ
5. ストロークの原型
6. ラケットのセット
7. ラケットの動き
8. 打点
9. 目線（バックとフォアの見分け）

年  
間  
授  
業  
計  
画

科 目 名	硬式テニス	担当者名	小 俣 充
-------	-------	------	-------

講 義 の 目 標	テニス、(シングルス)をどのように理解し、どのような目標を設け、どのように取り組むのかを確め、必要とする練習に徹底的に取り組む習慣を身につける。		
講 義 概 要	サービス・ストローク・ボレーについての多岐にわたる基礎を簡潔にまとめ、繰り返し練習する。またゲームでの心理(対プレッシャー)を分析し精神的なよりどころを探す。後期に埼玉オープンを見学。		
使 用 教 材	テキスト		
	参考文献	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本プロテニス協会編「ベスト・テクニク・テニス」学習研究社</li> <li>2. ロバート・S・ワインバーグ「テニスのメンタルトレーニング」大修館書店</li> <li>3. 稲垣正浩「スポーツを読む」三省堂</li> <li>4. W.T. ガルウエイ「インナーゲーム・インナーテニス」日刊スポーツ出版社</li> </ol>	
評 価 方 法	出席回数をベースにし、自分の課題にどれほど集中し努力したかによって評価		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>受講条件 1. 経験者(中級)のみ受講可。中級の具体的な目安は選択・登録時に表示。</p> <p>2. 実力が初級に近いと判断した受講者は1限目の受講とすることがある。</p>		

前・後期とも受講者の実態と進歩の状況により、次ぎのテーマを順次取り上げる。また個々のプレーを映像でとらえ、研究する。

1. 身体の構えと加重
2. 身体の軸と身体の動き
3. フットワーク
4. グリップ
5. ストロークの原型
6. ラケットのセット
7. ラケットの動き
8. 打点
9. 目線（バックとフォアの見分け）

年  
間  
授  
業  
計  
画

科 目 名	バレーボール	担当者名	小 俣 充
-------	--------	------	-------

講 義 の 目 標	バレーボールの面白さは何かを探り、その過程で、集団の中での自分と他人との存在を確かなものにする。		
講 義 概 要	レシーブ・アタックをベースにしたラリーが続くようにするための基礎を繰り返し練習し、ゲームに結びつける。		
使 用 教 材	テキスト		
	参 考 文 献	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 守能信次著『スポーツとルールの社会学』名古屋大学出版会</li> <li>2. ライナー・マートンズ『スポーツ・人間・社会』ベースボール・マガジン社</li> <li>3. 木村敏『人と人の間』弘文堂</li> <li>4. 体育原理分科会編「スポーツの倫理」不味堂出版</li> </ul>	
評 価 方 法	出席回数をベースにし、講義の目的に対する実績より評価		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>受講条件：プレーに伴って声をだし声をかけ、かけられたら応え、自ら積極的に行動し集中すること</p> <p>優遇措置：登録に際し選択を要する場合は、バレーボール経験者を多少優遇する。</p>		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション 目標、授業内容、出欠席の扱い方、評価等について説明</li> <li>2. ストレッチ。パレーボールの基礎とは何かを確認。相互のコミュニケーション。</li> <li>3. 実力が平均するようなチーム分けとチームごとの基礎練習。</li> <li>4. ゲームに向けた基礎練習（レシーブ体制）</li> <li>5. 同上（アタック体制）</li> <li>6. 同上（レシーブとアタック体制の切りかえ）</li> <li>7. 同 上</li> <li>8. リーグ戦その 1</li> <li>9. リーグ戦その 2</li> <li>10. 基礎練習とレシーブ、アタック体制の確認。</li> <li>11. リーグ戦その 2</li> <li>12. リーグ戦その 2</li> <li>13. 基礎練習（レシーブ）</li> <li>14. 基礎練習（アタック）</li> <li>15. リーグ戦その 3</li> <li>16. リーグ戦その 3</li> <li>17. 基礎練習（レシーブとアタック体制の確認と切りかえ）</li> <li>18. リーグ戦その 4</li> <li>19. リーグ戦その 4</li> <li>20. 基礎練習（レシーブとアタック体制の確認と切りかえ）</li> <li>21. リーグ戦その 5</li> <li>22. リーグ戦その 5</li> <li>23. 最終順位決定戦</li> <li>24. レクリエーションゲーム</li> </ol>
----------------------------	---



科 目 名	バドミントン	担当者名	梶 野 克 之
-------	--------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>ラケットとシャトルを使用してプレーするバドミントン競技を種目として取り上げ、バドミントンの基本的なプレーを練習を通して身につける。これらの過程を通して身体活動の必要性を理解するとともに、体力の維持向上をはかる。シングルス、ダブルスの試合方法を理解して実践できるようにするとともに、審判法についても十分に理解し、進んで審判ができるようにする。バドミントンの全般的な理解とともに、体力の維持向上をはかり、今後の生活の中に生かせるようにすることを目標としたい。</p>		
講 義 概 要	<p>バドミントンに関する基本的なルールや技術について理解する。手の延長としてのラケットを使用した各種のストロークを身につける。シングルス・ダブルスの試合の実施を通して、ルールの理解とともに、ゲームの進行方法の理解を深める。ゲームの中で練習した技術が生かせるようにするとともに、試合中に生じた疑問を克服してよりレベルの高いゲームを求めていく。審判法についても理解して、進んで審判をつとめるとともに、全体的な試合の進行状況にも関心を持ち、円滑な進行を心掛ける。</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	使用しない。	
	参 考 文 献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 相沢マチ子 『やさしいバドミントンレッスン』、1983、ベースボールマガジン社</li> <li>・ 阿部一佳、渡辺雅弘 『基本レッスンバドミントン』、1985、大修館書店</li> </ul>	
評 価 方 法	<p>評価は、出席回数、授業への参加態度、実技の達成度等によって決定する。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>毎回出席を原則とし、毎週新しい技術の習得を目指したい。より効果をあげるために毎回出席して、努力してほしい。</p>		

1. 年間授業計画の説明と、次回から開始する実技実施上の諸注意ならびに連絡事項の確認をする。
2. バドミントン競技の全般的な説明を行う。コート・ラケット・シャトル等についての解説をする。基本的なグリップの説明を行い、素振りによりストロークの基本を学ぶ。ネットをはさんでクリヤーの基本を練習する。
3. 前回に練習した基本的なストロークを、相手コート深くにシャトルを送るハイクリヤーに発展させる。ハイクリヤーと同じ構えから、シャトルをネット際に落とすドロップを理解し基本を練習する。
4. 前回までのクリヤー・ドロップの復習をする。ネット知覚で小さくコントロールするヘアピンの練習をする。最初はネット知覚に構えて行うが、慣れてきたら、中央近くに位置し前方へのフットワークを学ぶ。
5. 前回までの各種のストロークを復習する。アンダーハンドからシャトルを打つサーブの基本となる動作を練習する。コートの縦半分を使い、これまで練習した各種ストロークを自由に打ちあってみる。
6. 前回までの各種ストロークを課題をきめて練習する。前週の半面シングルスのカウントをとって実施する。縦半分の広さであるので、前後の動きを課題として試合形式で行う。
7. 前回までのストロークを復習する。前回に続いて半面シングルスを行い、審判法について理解し進んで審判を行うようにする。試合結果について記録し、上達度を参考とする。
8. 前回までのストロークを復習する。ドライブの基本を学ぶ、相手コートに素早くシャトルを送り込めるようにする。全面を使用した正規のシングルのゲームを実施する。
9. 前回までの各種ストロークを復習する。スマッシュの基本を学び、これまでよりもスピードのあるシャトルに慣れる。前回に続いて正規のシングルのゲームを実施する。
10. 前回までのストロークを課題をきめて練習する。相手にハイクリヤーを打ってもらい、ホームポジションから後方へのフットワークを学ぶ。ダブルスの基本を理解し、試合形式のダブルスを実施する。
11. 前回までのストロークを復習する。ダブルスの基本的なフォーメーションを学ぶ練習する。ダブルスのルールについて理解し、試合を実施すると同時に、審判法の理解を深める。
12. 前回までのストロークを復習する。全体をいくつかのグループに分け、総あたりのリーグ戦を実施する。進行係を決めて、試合及び審判が円滑に進行するようにする。
13. 前期に練習した基本的なストロークを復習する。ダブルスの試合進行方法と、審判法を確認し、ダブルスの試合を実施スル。バドミントンを久しぶりに行う者が多いので、前期の感覚を思い出させる。
14. ハイクリヤーから開始し、各種ストロークを練習する。ダブルスのパートナーを決め、いくつかのグループによりリーグ戦を再開する。セッティングについて説明を行い、理解を深める。
15. ハイクリヤーから開始し、各種ストロークを練習する。ダブルスの基本的なフォーメーションについてパートナーと確認し、ゲームの中で実施できるように心がける。
16. パートナーとクリヤーから開始し、各種ストロークを練習する。前回のゲーム結果を分析し問題点を整理する。前回に引き続き、ダブルスゲームを実施する。
17. クリヤーから開始し、各種ストロークを練習する。前回のゲーム結果を分析し、問題点を整理する。ゲームの進行状態を確認し、組み合わせを変えてリーグ戦を進める。
18. ハイクリヤーから開始し、自分達の課題とするストロークの練習をする。ダブルスゲームを進行し、練習した課題がゲームの中で実際に使えるように努力し、ゲームの質を高める。
19. ハイクリヤーから開始し、自分達の課題とするストロークの練習をする。引き続き、ダブルスゲームを進行し、ゲームのおもしろさを理解し、進んでゲーム・審判を行う。
20. クリヤーから開始し、自分達の課題とするストロークの練習をする。引き続きゲームを進行し、試合の中で課題の克服に努める。パートナーと相談しながらより高いレベルのゲームを心掛ける。
21. クリヤーから開始し、各種ストロークの練習をする。パートナーと相談し、ゲームの中での問題点を集中して練習する。リーグ戦の進行状況により、パートナー・組み合わせを考える。
22. クリヤーから開始し、課題となるストロークの練習をする。パートナーと相談し、ゲームの中で相手プレイヤーの動きに合わせたプレーの練習をする。引き続きゲームを進める。
23. クリヤーから開始し、ストロークの練習をする。パートナーとゲームの中での問題点を整理し練習する。ゲーム・審判ともに全員が進んで実行するようにする。
24. ゲームの進行を確認し、勝負、順位などについて整理する。この授業のまとめと、これ以後のバドミントンとの関わりや、体育・身体運動との関わりについて考える。

科 目 名	バスケットボール	担当者名	勝 瀬 武
-------	----------	------	-------

講 義 の 目 標	<p>体育実技は実習であるから積極的に参加し、自ら活動する意欲をもって、体力の維持増進に努めてもらいたい。また、バスケットボールの授業を通して、社会性、協調性、公正な判断やルールを遵守する態度を学んでほしい。</p>		
講 義 概 要	<p>バスケットボールのルールを正確に把握し、基本技術を習得することによって、楽しくゲームが出来るようにする。また、ゲーム時には、各チームから審判、得点係等を出し、試合の進行を助け合う。</p> <p>個人のレベルアップとともに試合運び等を研究し、チーム全体の技術の向上を目標に努力する。</p>		
使 用 教 材	テキスト	なし	
	参 考 文 献	なし	
評 価 方 法	<p>出席、受講態度を重視し、欠席回数が授業時数の 1/3 を超した者は不合格とする。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>バスケットボールを行うのにふさわしい服装で出席すること。</p>		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 基本練習（パス、ドリブル、ドリブルシュート、ランニングシュート、セットシュート）</li> <li>3. 基本練習（パス、ドリブル、ドリブルシュート、ランニングシュート、セットシュート）</li> <li>4. セットオフェンス（ハーフコートにおける 3対2）</li> <li>5. セットディフェンス（ハーフコートにおける 5対5）</li> <li>6. オールコートにおける試合（班分けをする）</li> <li>7. オールコートにおける試合（班分けをする）</li> <li>8. リーグ戦開始（前期）（試合に際して、各チームとも審判、オフィシャルの勉強をしてもらう）</li> <li>9. リーグ戦（前期）（試合に際して、各チームとも審判、オフィシャルの勉強をもらう）</li> <li>10. リーグ戦（前期）（試合に際して、各チームとも審判、オフィシャルの勉強をもらう）</li> <li>11. リーグ戦（前期）（試合に際して、各チームとも審判、オフィシャルの勉強をもらう）</li> <li>12. リーグ戦（前期）（試合に際して、各チームとも審判、オフィシャルの勉強をもらう）</li> <li>13. 後期リーグ戦前の予備試合（後期リーグのためにチームの再編成）</li> <li>14. 後期リーグ戦前の予備試合（後期リーグのためにチームの再編成）</li> <li>15. 後期リーグ戦開始（試合に際して、各チームより審判、得点係を出し、試合進行に努める）</li> <li>16. 後期リーグ戦（試合に際して、各チームより審判、得点係を出し、試合進行に努める）</li> <li>17. 後期リーグ戦（試合に際して、各チームより審判、得点係を出し、試合進行に努める）</li> <li>18. 後期リーグ戦（試合に際して、各チームより審判、得点係を出し、試合進行に努める）</li> <li>19. 後期リーグ戦（試合に際して、各チームより審判、得点係を出し、試合進行に努める）</li> <li>20. 後期リーグ戦（試合に際して、各チームより審判、得点係を出し、試合進行に努める）</li> <li>21. 後期リーグ戦（試合に際して、各チームより審判、得点係を出し、試合進行に努める）</li> <li>22. 後期リーグ戦の成績により、順位決定戦を行う。</li> <li>23. 後期リーグ戦の成績により、順位決定戦を行う。</li> <li>24. 後期リーグ戦の成績により、順位決定戦を行う。</li> </ol>
----------------------------	---

科 目 名	インラインスケート	担当者名	加 藤 雅 子
-------	-----------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>応用技術へと発展していかれるように、基礎技術をしっかりと身に付けることを目標としています。</p> <p>また、危険から身を守り、楽しくインラインスケートができるように、安全対策に関する知識も深めていきましょう。</p>		
講 義 概 要	<p>スケーティング、クロス、ターン、ストップ等が練習課題になります。フォアとバックの直線滑走だけではなく、アウト・サイド、イン・サイドと傾斜を利用してカーブを描きながら滑る練習をしていきます。ターンに関しては、回転する方向、体重移動の仕方を学び、フォアからバック、バックからフォアへとスムーズな流れの中で方向転換ができるように課題にチャレンジしていただきます。また、何種類かのストップ動作にも挑戦してもらい、スピードを出して滑っても、きちんと止まれるようにしていきましょう。</p>		
使 用 教 材	テキスト		
	参考文献		
評 価 方 法	<p>出席状況、授業態度、技術の向上度、レポートを加味して評価する。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>動きやすい服装であること。</p> <p>ソックスは必ず用意すること。</p> <p>やむを得ない事由の欠席の場合は、できるだけ早く届け出ること。</p>		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 年間スケジュールおよび履修上の諸注意と、インラインスケートの特性について説明 イメージビデオの視聴</li> <li>2. インラインスケートの履き方と、安全面の諸注意。 足踏み、歩行練習。</li> <li>3. ハの字歩行、フォアひょうたん、ストップの練習（ヒール）</li> <li>4. フォアスケATING、片ひょうたんの練習。</li> <li>5. バックの歩行とひょうたんの練習。 Tストップの練習。</li> <li>6. バックの片ひょうたんの練習。</li> <li>7. パイロンを使ったフォアのスラロームの練習 1</li> <li>8. パイロンを使ったフォアのスラロームの練習 2</li> <li>9. パイロンを使ったフォアのスラロームの練習 3</li> <li>10. フォアクロスの導入</li> <li>11. フォアクロスとスケATINGを組み合せた練習。</li> <li>12. ローラーホッケーのゲーム。</li> <li>13. 前期の復習。</li> <li>14. フォアのサーベントイン。 ターンの練習。</li> <li>15. バックのサーベントイン。 フォアのサーベントイン+バックのサーベントインを組み合せた練習</li> <li>16. スピンストップの練習。 モホークターンの練習。</li> <li>17. コンビネーションステップの練習。</li> <li>18. バッククロス of 導入。</li> <li>19. バッククロスとスケATINGを組み合せた練習。</li> <li>20. パワーストップの練習。</li> <li>21. フォア/バック of トランジション（方向転換）</li> <li>22. ワンフットスラローム。（フォア）</li> <li>23. ワンフットスラローム。（バック）</li> <li>24. ローラーホッケー of ゲーム。</li> </ol>
----------------------------	--

科 目 名	サ ッ カ ー	担当者名	田 代 力 也
-------	---------	------	---------

講義の目標	サッカーの基礎、応用練習、ゲームを通して体力、運動能力の向上をめざす。チームゲームの中で協調性をたかめる。		
講義概要	年間授業計画の週毎の内容については、個別に取上げて行うものと、できる限り毎週、ゲーム形式を取入れることによって練習効果をたかめるものとの両面で展開する。 ビデオ使用は、予備日（雨天等）を含めて適時、週に繰入れる。		
使用教材	テキスト		
	参考文献		
評価方法	出席状況、参加態度と技術、体力、運動能力の上昇度等を総合的に評価する。		
受講者に対する要望など	ゲームを中心に進めるので、特に遅刻は自他ともに大きなマイナス行為となる。この点注意が必要。		
年間授業計画	1. ビデオ教材を使用しての導入部 2.           " 3. キックの基礎 4.           " 5. キックの応用 6. キックの応用 7. コンビネーションプレイ 8. コンビネーションプレイ 9. コンビネーションプレイ 10. ゲーム 11. 予備 12. 予備 13. ビデオ教材を使用してゲーム分析 14. ビデオ教材を使用してゲーム分析 15. 週毎の課題の中でゲーム 16. 週毎の課題の中でゲーム 17. 週毎の課題の中でゲーム 18. 週毎の課題の中でゲーム 19. 週毎の課題の中でゲーム 20. 週毎の課題の中でゲーム 21. 週毎の課題の中でゲーム 22. 週毎の課題の中でゲーム 23. 予備 24. 予備		

科 目 名	ソフトボール	担当者名	田 代 力 也
-------	--------	------	---------

講義の目標	ソフトボールの基礎、応用練習、ゲームを通して体力、運動能力の向上をめざす。チームゲームの中で協調性をたかめる。		
講義概要	年間授業計画の週毎の内容については個別に取上げて行うものと、できる限り毎週、ゲーム型式を取入れることによって練習効果をたかめるものとの両面で展開する。 ビデオ使用は予備日（雨天等）を含めて適時、週に繰入れる。		
使用教材	テキスト		
	参考文献		
評価方法	出席状況、参加態度と技術、体力、運動能力の上昇度等を総合的に評価する。		
受講者に対する要望など	ゲームを中心に進めるので、特に遅刻は自他ともに大きなマイナス行為となる。この点注意が必要。		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ビデオ教材を使用しての導入部</li> <li>2. ビデオ教材を使用しての導入部</li> <li>3. 投球、捕球の基礎</li> <li>4. 投球、捕球の応用</li> <li>5. バッティングの基礎</li> <li>6. バッティングの応用</li> <li>7. チームプレイ</li> <li>8. チームプレイ</li> <li>9. ゲーム</li> <li>10. ゲーム</li> <li>11. 予備</li> <li>12. 予備</li> <li>13. ビデオ教材を使用してのゲーム分析</li> <li>14. ビデオ教材を使用してのゲーム分析</li> <li>15. 週毎の課題の中でゲーム</li> <li>16. 週毎の課題の中でゲーム</li> <li>17. 週毎の課題の中でゲーム</li> <li>18. 週毎の課題の中でゲーム</li> <li>19. 週毎の課題の中でゲーム</li> <li>20. 週毎の課題の中でゲーム</li> <li>21. 週毎の課題の中でゲーム</li> <li>22. 週毎の課題の中でゲーム</li> <li>23. 予備</li> <li>24. 予備</li> </ol>		



科 目 名	ソフトボール（後期） スキー 集中授業	担当者名	田 代 力 也
-------	------------------------	------	---------

講義の目標	ソフトボールの基礎、応用練習、ゲームを通して体力、運動能力をたかめる。チームゲームに必要な協調性をたかめる。 生涯スポーツとしてのスキーを認識する。理論と実技の中で技術の習得、安全なスキーを学ぶ。		
講義概要	ソフトボール 年間授業計画の週毎の内容については個別に取上げて行うものと、できる限り、毎週ゲームの型式を取入れることによって練習効果をたかめるものとの両面で展開する。ビデオ使用は予備日（雨天等）を含めて適時、週に繰入れる。 スキーは集中授業の形式で、能力別に班分けをし別紙の要領にて行う。		
使用教材	テキスト		
	参考文献		
評価方法	出席状況、参加態度と技術、体力、運動能力の上昇度等を総合的に評価する。		
受講者に対する要望など	ゲームを中心に進めるので、特に遅刻は自他ともに、大きなマイナス行為となる。注意すること。スキー実習も同様である。		
年間授業計画	1. ソフトボール ビデオ教材を使用しての導入部 2. ビデオ教材を使用しての導入部 3. 投球、捕球の基礎、応用 4. バッティングの基礎、応用 5. チームプレイ 6. チームプレイ 7. 週毎の課題の中でゲーム 8. 週毎の課題の中でゲーム 9. 週毎の課題の中でゲーム 10. 週毎の課題の中でゲーム 11. 予備 12. 予備 スキー 集中授業：4泊5日の実習 第1日 午後 班分け 試走 第2日 能力別班編成にて実習 第3日 能力別班編成にて実習 第4日 能力別班編成にて実習 第5日 午前 テスト他 *夜間のミーティングはビデオ教材及び、班毎の実習の録画を見て個々のスキー分析を行う。		

科 目 名	硬式テニス	担当者名	田 中 茂 宏
-------	-------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>学生自身が運動種目に必要なウォーミング・アップ、クーリング・ダウンを行えるようになり、主体性を発揮、身につけることを目的とする。</p> <p>技術的には、フォア・バックのストロークを中心にラリーができるようになり、ゲームの中で必要とされる技術を身につけ、ゲームの進め方、ルールを学ぶ。</p> <p>レポート提出を実施することで目的、問題意識を持たせる。</p>		
講 義 概 要	<p>テニスシューズを用意して出席すること。基本技術の練習を中心にを行い、ゲーム形式の時には、結果を記録する。</p> <p>能力別グループに分け、レベルに応じた授業を進める。ダブルス・シングルのゲームを通して、ルール、ゲームの進め方を学ぶ。</p> <p>出欠点呼は毎回実施する。雨天でも行いますが、コートが使用不可能な時には、3棟1階の体育掲示板で指示する。</p>		
使 用 教 材	テキスト		
	参考文献		
評 価 方 法	<p>出欠状況、授業態度を中心として、技能の向上、ゲームの結果、レポート等を加味して評価する。レポートについては、まとめのものが2回とあと必要な数を提出する。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>テニスシューズを用意する。遅刻、着替えを忘れた者は授業の参加を認めない。見学者も更衣の後に出席すること。出欠状況は各自が覚えておく。</p> <p>自主性、積極性のある意識の高い者を希望する。</p>		

年 間 授 業 計 画	1. 授業登録の確認と授業内容の説明、個人資料の作成。
	2. 準備体操、整理体操の実施上の注意、用具の準備と片付けの指示、グループ分けと軽い練習。
	3. グループ分けした班で基本練習。
	4.                                 "
	5.                                 "
	6.                                 "
	7.                                 "
	8.                                 "
	9. ゲームを行い、ルール、ゲームの進め方を学ぶ。
	10.                                "
	11.                                "
	12. 前期レポート提出。ゲームを行う。
	13. 体慣らしの種目を行う。
	14.                                "
	15. グループに分けて、テーマを決めて練習する。
	16.                                "
	17.                                "
	18.                                "
	19. ゲームを行い、ルール、ゲームの進め方を学ぶ。
	20.                                "
	21.                                "
	22.                                "
	23.                                "
	24. 後期レポート提出

科 目 名	硬式テニス	担当者名	野 口 昭 彦
-------	-------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>現代社会では科学技術文明の進歩に伴い社会環境が著しく変化してきた。その変化に対して身体運動の重要性が認識され、“健康増進”に深い関心が持たれてきた。また、ストレス解消等さまざまな目的に応じて身体活動を行う社会へと変化してきた。このような現代社会での健康管理は、ただ漠然と運動やスポーツを行うものではなく、各自のライフスタイルや体力に応じ、自分の健康は自分で創り上げていく、ウェルネス（WELLNESS）運動が必要である。以上のことを考慮し、学生時代に運動の基礎を体得し、永い人生に活用できる内容を展開する。</p>		
講 義 概 要	<p>テニスは生涯スポーツとして適切な運動刺激があり、年齢やその人の体力、技能に応じてできるスポーツなので、身体運動の習慣を身に付けることが期待でき、その楽しさを生涯味わうことができる。テニスはメンタルな要素を多く含んでおり、いつでも冷静な判断で精神力や集中力を養い、エチケットやマナーを守り、人々の人間関係を大切にすることをスポーツである。また、テニスは技術の取得に経験と時間が必要とされることから、全体を初心、初級、中級、上級の4クラスに分け、各クラスに適した指導を行い、楽しいテニスを取得し、永い人生の生涯体育として、また、社会生活に貢献できることを期待したい。</p>		
使 用 教 材	テキスト	適宜資料を配布する。	
	参 考 文 献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『テニス読本』 テニスジャーナル</li> <li>・『先手をとるダブルス2人の役割』 学研</li> <li>・『テニスのメンタルトレーニング』 大修館書店</li> </ul>	
評 価 方 法	<p>出席を重視するが、履修態度や運動服装も評価の対象とする。簡単なテストを行う。特に服装については、履修時に説明する。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>必ずコートに適合したテニスシューズを各自で用意する事。降雨等でコートが使用不可能の場合は、教室にてビデオまたは、講義を行う。年間講義予定は授業の進行状況により、変更の場合もある。授業中は携帯電話の使用は禁止する。</p>		

年 間 授 業 計 画	前 期	
	1	オリエンテーション 1 年間の履修概要説明
	2	基本動作：ラケットグリップの確認（フォア、バック） ボールに慣れる、フットワーク
	3	基本動作：技術レベルごとに班編成グラウンドストローク（フォア）
	4	基本動作：各班ごとにグラウンドストローク（バック）
	5	基本動作：各班ごとにグラウンドストローク、ボレー
	6	基本動作：各班ごとにグラウンドストローク（クロス）、ボレー（ロー、ハイ）
	7	基本動作：各班ごとにグラウンドストローク（逆クロス）、ボレー、スマッシュ
	8	基本動作：各班ごとにグラウンドストローク、ボレー、スマッシュ、サーブ
	9	各班ごとに、ダブルスの試合、審判法、マナー、試合の基本練習
	10	各班ごとに、ダブルスの試合、審判法、マナー、試合の基本練習
	11	各班ごとに、ダブルスの試合、審判法、マナー、試合の基本練習
	12	各班ごとに、ダブルスの試合、審判法、マナー、試合の基本練習
		備考
	後 期	
	1	前期の基本動作の復習
	2	応用動作：グラウンドストローク、ボレー、スマッシュ、サービス、の連携プレー
	3	応用動作：グラウンドストローク、ボレー、スマッシュ、サービス、の連携プレー
	4	応用動作：グラウンドストローク、ボレー、スマッシュ、サービス、の連携プレー
	5	各班ごとに、ダブルス（含ミックス）試合、雁行陣、試合のセオリー説明
	6	各班ごとに、ダブルス（含ミックス）試合、雁行陣、試合のセオリー説明
	7	各班ごとに、ダブルス（含ミックス）試合、並行陣、試合のセオリー説明
	8	各班ごとに、試合ダブルス（含ミックス）リーグ戦
	9	各班ごとに、試合ダブルス（含ミックス）リーグ戦
10	各班ごとに、試合ダブルス（含ミックス）リーグ戦	
11	各班ごとに、試合ダブルス（含ミックス）リーグ戦	
12	各班ごとに、試合ダブルス（含ミックス）リーグ戦	
	備考	

科 目 名	ソフトボール	担当者名	萩 野 元 祐
-------	--------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>基本的練習により、個人的技能、集団的技能を高め、より高いゲーム展開ができることを目指す。またそのなかで、ソフトボールを楽しむということも目標のひとつである。</p>		
講 義 概 要	<p>初心者から中級者に合わせる内容であり、個人的技能、集団的技能練習の内容は、基本練習中心で展開される。また、ゲームを通して、ソフトボールの特性や、技術、戦術を高める。</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト		
	参 考 文 献		
評 価 方 法	<p>出席点を基本として評価。授業態度、技術の向上などを加味する。欠席時数7回以上の者については評価の対象としない。特別な理由以外の遅刻は認めない。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>技術力はともかくとして、ソフトボールに興味があり真剣に取り組み、そして楽しんでもらいたい。</p>		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション（体育館にて） 登録の確認と授業内容の説明。個人資料の作成など。</li> <li>2. ソフトボールの特性、基本的ルールなどの説明。 個人的技能練習。ボールの握り方、送球、捕球の基本練習</li> <li>3. 前回の復習。 独自ルールでのゲーム実施。</li> <li>4. バッティング練習（握り方、スタンス、位置、構え方、スイングなどの練習。独自ルールでのゲーム実施。</li> <li>5. 前回の復習。 独自ルールでのゲーム実施。</li> <li>6. 前回の復習。 独自ルールでのゲーム実施。</li> <li>7. バンド練習。（グリップ、スタンス、セフティバンド） 独自ルールでのゲーム実施。</li> <li>8. 前回の復習。 独自ルールでのゲーム実施。</li> <li>9. 守備における送球、捕球（ゴロ、フライ）練習。 独自ルールでのゲーム実施。</li> <li>10. 前回の復習。 独自ルールでのゲーム実施。</li> <li>11. 投手のボールの握り方と投球練習。 ゲーム実施。</li> <li>12. 前回の復習。 ゲーム実施</li> <li>13. 前期の復習。 4チームによるリーグ戦（1）</li> <li>14. 前期の復習。 4チームによるリーグ戦（2）</li> <li>15. 集団技能（守備） ベースカバーを練習。 4チームによるリーグ戦（3）</li> <li>16. 前回の復習。 4チームによるリーグ戦（4）</li> <li>17. 集団技能（守備） リレープレイを練習。 4チームによるリーグ戦（1）</li> <li>18. 前回の復習。 4チームによるリーグ戦（2）</li> <li>19. スクイズプレイの練習。 4チームによるリーグ戦（3）</li> <li>20. 前回の復習。 4チームによるリーグ戦（4）</li> <li>21. ダブルプレイの練習。 4チームによるリーグ戦（1）</li> <li>22. 前回の復習。 4チームによるリーグ戦（2）</li> <li>23. 4チームによるリーグ戦（3）</li> <li>24. 4チームによるリーグ戦（4）</li> </ol>
----------------------------	--

科 目 名	バドミントン	担当者名	萩原 武久
-------	--------	------	-------

講義の目標	バドミントン競技を種目としてとりあげ、バドミントンの基本的なプレーを身につけると共に、これらの過程を通して運動、スポーツの必要性を理解し体力の維持向上をはかる。またシングルス、ダブルスの試合方法やルールを理解し、今後の生活の中に生かせるようにすることを目標とする。		
講義概要	バドミントンに関する基本的なルールや各種ストロークの技術やフットワーク、戦術について理解をする。シングルス、ダブルスの試合については、ルールの理解と共に審判の能力も高め円滑な進行ができるようにする。		
使用教材	テキスト	使用しない。	
	参考文献		
評価方法	評価は出席回数、授業への参加態度、実技の達成度等によって行う。		
受講者に対する要望など	毎回授業に出席して、真面目に取り組むこと。		



年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 年間授業計画の説明と、受講上の注意、次回からの連絡事項の確認。</li> <li>2. バドミントンの全般的な説明を行う。コート、ラケット、シャトル等についての説明。基本的なクリップと素振りを行い、ストロークの基本を学ぶ。</li> <li>3. 基本的ストロークのハイクリヤーの練習とドロップの基本を練習する。</li> <li>4. ハイクリヤーの能力をさらに高めると共に、ドロップ、ヘアピンの練習を行う。</li> <li>5. アンダ - ハンドからシャトルを打ち、サーブの基本を練習する。コートの縦半分を使い、2人でこれまで練習したストロークで打ち合う。</li> <li>6. 前週の縦半分のコートでシングルスゲームを行う。</li> <li>7. 前回に続いて半面でのシングルスを行い、審判法についても学ぶ。</li> <li>8. 前回までのストロークの復習と、基本的なストロークのドライブを学ぶ。全面を使用しての正規のシングルス開始。</li> <li>9. 前回までのストロークに加えてフットワークを学ぶ。シングルス正親のゲーム。</li> <li>10. シングルス正規のゲーム。</li> <li>11. シングルス正規のゲーム。総あたりリーグ戦開始。</li> <li>12. シングルス正視のゲーム。総あたりリーグ戦開始。ダブルスのゲームの説明を行う。</li> <li>13. 前期に練習した基本的なストロークの復習。ダブルス試合進行方法と審判法を確認を行う。</li> <li>14. 各種ストロークの練習。ダブルスのパートナーを決定し、いくつかのグループでリーグ戦を開始する。</li> <li>15. 各種ストロークの練習と、ダブルスの基本的なフォーメーションについて理解する。</li> <li>16. ダブルスでのリーグ戦開始。</li> <li>17. ダブルスでのリーグ戦を行うが、パートナーを変えてダブルスを組みリーグ戦を行う。</li> <li>18. ダブルスでのリーグ戦。</li> <li>19. ダブルスでのリーグ戦。パートナーの組み換え。ゲームの中における戦術的要素の分析と理解。</li> <li>20. ダブルスでのリーグ戦。ゲームの中における戦術的要素の分析と理解をさらに深める。</li> <li>21. ダブルスでの総あたり戦。</li> <li>22. ダブルスでの総あたり戦。ダブルで培った能力を生かすためにシングルスゲームを行う。</li> <li>23. 1年間の集大成としてシングルス試合、ダブルス試合を行う。</li> <li>24. 対戦相手とダブルスのパートナーを代えて、シングルス、ダブルスのゲームを行う。過去の対戦成績の発表。</li> </ol>
----------------------------	--

科 目 名	サッカー	担当者名	檜 山 康
-------	------	------	-------

講 義 の 目 標	<p>スポーツには、歴史的、系統的に発展してきた種目独自の運動文化が存在する。運動文化としてのルール、戦術、それらを取りまく社会環境というものは、人間が長い歴史の中で試行錯誤を重ねて作り上げてきた。本講では、サッカーを教材としてとり上げ、独自の運動文化に触れながら、サッカー本来の楽しさを追求することを目的とする。</p>		
講 義 概 要	<p>ゲームを中心に行う予定であるが、その準備段階として技術、戦術を発展させられるようなハンドリングゲームや予備ゲーム、スモールゲームなどを取り入れていく。つまり 1 つ 1 つの技術、戦術を個別にとり出して練習するのではなく、常にゲームを意識して、ゲーム形式の中で実際に体を動かして学習してもらいたいと考えている。また参加者の意見を積極的にだしてもらい、有効なゲームの進め方について考える場にしたいと思っている。</p> <p>雨天時は、体育館においてフットサル(ミニサッカー)、または教室にて VTR による解説を行う。</p>		
使 用 教 材	テキスト	特になし。	
	参考文献	特になし。	
評 価 方 法	<p>出席重視。加えて授業への参加態度、意欲。場合によっては実技試験、レポートなどもある。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>服装、マナーなどに注意する。貴金属、時計などは身につけない。遅刻はしない。</p>		

1. オリエンテーション。諸注意。
2. ボールに慣れる
  - ・ 試しのゲーム
3. ボールキープ、スクリーニングの練習
  - ・ 3 vs 3 ないしは 4 vs 4 のゲーム
4. ボールなしの動き
  - ・ 5 vs 5 ないしは 6 vs 6 のゲーム
5. ボールなしの動き
  - ・ 5 vs 5 ないしは 6 vs 6 のゲーム
6. サイドチェンジ（方向の変化）
  - ・ 7 vs 7 または 8 vs 8 のゲーム
7. フォアチェック（前からのディフェンス）
  - ・ 8 vs 8 または 9 vs 9 のゲーム
8. サポートの動き
  - ・ 7 vs 7 または 8 vs 8 のゲーム
9. 周りを見る（ルックアップ）
  - ・ 7 vs 7 または 8 vs 8 のゲーム
10. 4 vs 2 のパスゲーム（サポート、ボールなしの動き）
  - ・ 10 vs 10 または 11 vs 11 のフルコートでのゲーム
11. 外からの攻撃
  - ・ フルコートでのゲーム
12. ポストプレー、クサビ
  - ・ フルコートでのゲーム
13. 1 vs 1 の戦術
  - ・ 5 vs 5 のゲーム
14. 2 vs 1 の戦術
  - ・ 7 vs 7 or 8 vs 8 の 2 タッチ、3 タッチゲーム
15. 2 vs 2 の戦術（マン・マーク）
  - ・ マン・ツー・マンのゲーム
16. 2 vs 2 の戦術（ゾーンマーク）
  - ・ ゾーンディフェンスでのゲーム
17. 3 vs 2 の戦術
  - ・ ゾーン・マークとマン・マークとを使い分けるゲーム
18. 3 vs 3 の戦術（カバーリングとバランス）
  - ・ フルコートでのゲーム
19. 4 vs 4 の戦術（ポジションとフォーメーション）
  - ・ フォーメーションを意識したゲーム
20. フルゲームでの戦術（コンパクトネス）
  - ・ リーグ戦
21. フルゲームでの戦術（幅広い攻撃）
  - ・ リーグ戦
22. フルゲームでの戦術（ポジションの役割）
  - ・ リーグ戦
23. チームごとの課題練習
  - ・ リーグ戦
24. チームごとの課題練習
  - ・ リーグ戦

科目名	卓球	担当者名	本田稔祐
-----	----	------	------

講義の目標	卓球を通じて、運動する習慣を身につける。卓球は、台とラケット、ボールさえあれば、老若男女を問わず、比較的誰にでも手軽にできるスポーツで、敏捷性や集中力を養ない、ルールやゲームの進め方を学んで審判ができ、基本技術なども練習して、将来社会生活の中で活用して、健康維持に貢献できることを目的とする。		
講義概要	個々の技能の判定をして、能力別の基本練習をしながら、ゲームの進め方、ルール、簡単な審判法なども理解する。簡易ゲームより始め、少しずつ正式のゲームができるようにする。個人戦、ダブルス戦、団体戦など行ないながら、お互いのコミュニケーションをはかる。		
使用教材	テキスト	特になし	
	参考文献	倉木常夫他編「指導者のための卓球」、不味堂出版 萩村伊知朗他著「卓球教室」大修館書店 他	
評価方法	出席状況、授業態度（服装の適否）、多少の技能の進歩などを加味して行う。（出席点は欠席2回以内 A、4回以内 B、6回以内 C、7回以上 F とします）		
受講者に対する要望など	欠席、遅刻をしないこと。用具は大学で用意するが、ラケットは各人で用意することが望ましい。なお G パンのまゝ授業に出ないこと。		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス、授業内容の説明、個人資料の作成（写真を用意すること）</li> <li>2. 基本知識、動作などの説明と、用具の準備の仕方など</li> <li>3. 能力別グループ編成と基本練習（構え、フットワーク）など</li> <li>4. グリップ、フォアハンドロング、バックハンドショートなどの練習、簡易ゲーム</li> <li>5. バックハンドロング、ショートカットなどの練習、簡易ゲーム</li> <li>6. サーブとレシーブの練習、能力別グループ内でのシングルス リーグ戦</li> <li>7. スマッシュとフットワーク練習、シングルス リーグ戦つづき</li> <li>8. ダブルスゲームの進め方、ダブルスゲーム リーグ戦</li> <li>9. ダブルスゲーム続き</li> <li>10. ダブルスゲーム続き</li> <li>11. シングルス トーナメント戦 予選</li> <li>12. シングルス トーナメント戦 決勝</li> <li>13. チームを編成してチーム内で個人リーグ戦</li> <li>14. 個人リーグ戦続き</li> <li>15. チーム対抗戦（シングルス、ダブルス）</li> <li>16. 対抗戦続き</li> <li>17. 対抗戦続き</li> <li>18. 対抗戦続き</li> <li>19. ダブルスゲーム リーグ戦</li> <li>20. ダブルスゲーム続き</li> <li>21. ダブルスゲーム続き</li> <li>22. ダブルス トーナメント戦 予選</li> <li>23. ダブルス トーナメント戦 決勝</li> <li>24. 技能テスト</li> </ol>
----------------------------	---

科 目 名	スキー/インライン	担当者名	松 原 裕
-------	-----------	------	-------

講 義 の 目 標	<p>集中授業として合宿形式で行なうアルペンスキーが主体であり、学内で行なうインラインスケートの内容もスキーに向けてのトレーニングが目的となる。秋田県田沢湖スキー場の自然環境と人的環境の中で、滑走する感覚の面白さをどれくらい理解する事が出来るか、これが授業の目的になります。</p>		
講 義 概 要	<p>学内のインラインスケートは、基本的な滑走技術、バランス感覚、ストックワーク、回転のメカニズムを紹介する。集中授業のスキーは、2月に秋田県田沢湖スキー場で行い、オーストリアの初心者指導、ビックフット、Fun カービングスキー、ショートポール、レベルアップトレーニング、用具の理解、自然環境への理解、安全とマナーについて紹介する。</p> <p>選択の際には、男女・経験・技術レベルなどの条件は問わないが、実習費、交通費（現地集合・解散）、レンタル料（利用者のみ）などの個人負担が必要となる。</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	そのつど紹介する。	
	参 考 文 献	そのつど紹介する。	
評 価 方 法	<p>毎時間の出欠席、態度、インラインスケート・アルペンスキー全ての要素に対する理解度などを総合して評価する。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>学究心、団体生活への適応、公正な態度、コミュニケーション</p>		

年 間 授 業 計 画	1. オリエンテーション 個人票の作成 (写真 4×3cm 1枚添付) 授業実施上の諸注意 (第2週より前期は授業がありません。)
	2.
	3.
	4.
	5.
	6.
	7.
	8.
	9.
	10.
	11.
	12.
	13. インラインスケート サイズ合わせ
	14. " 基本滑走
	15. " 基本滑走+ストック
	16. " スラローム滑走
	17. " 回転弧のリズム変化
	18. " ショートターン
	19. " スtockワーク
	20. " フォーメーション滑走
	21. " 総合滑走
	22. スキー実習のオリエンテーション (講義)
	23. "
	24. "

科 目 名	硬式テニス	担当者名	松 原 裕
-------	-------	------	-------

講義の目標	硬式テニスはシングルスとダブルスの2つの試合形式があるが、この授業ではダブルスを対象とする。男女ダブルスと混合ダブルスの面白さをどれくらい理解する事が出来るか、これが授業の目的になります。		
講義概要	ラケットコントロール、個人戦術、チーム戦術、役割分担、審判、試合運営などダブルスに関わる全ての要素を全員に体験してもらう。選択の際には、男女・経験・技術レベルなどの条件は問わないが、クレイコート用テニスシューズを各自で用意すること。天候等の関係で、コートが使用出来ない場合には、他の場所を利用して実技をするか、教室で講義をする。		
使用教材	テキスト	そのつど紹介する。	
	参考文献	そのつど紹介する。	
評価方法	毎時間の出欠席、態度、硬式テニス全ての要素に対する理解度などを総合して評価する。		
受講者に対する要望など	学究心、フェアプレー、コミュニケーション		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション 個人票の作成（写真4×3cm1枚添付） 授業実施上の諸注意</li> <li>2. 基本トレーニング ラケットコントロール</li> <li>3.                    "</li> <li>4.                    "</li> <li>5. 基本戦術 個人戦術・チーム戦術</li> <li>6.                    "</li> <li>7. 試合に必要な準備 競技場の設営・審判について</li> <li>8. 第1回リーグ戦（混合ダブルス）</li> <li>9.                    "</li> <li>10. 第2回リーグ戦（男女ダブルス）</li> <li>11.                   "</li> <li>12. リーグ戦の反省・表彰</li> <li>13. 基本トレーニング ラケットコントロール</li> <li>14.                   "</li> <li>15.                   "</li> <li>16. 基本戦術 個人戦術・チーム戦術</li> <li>17.                   "</li> <li>18. 第3回リーグ戦（団体戦）</li> <li>19.                   "</li> <li>20.                   "</li> <li>21.                   "</li> <li>22. リーグ戦の反省・表彰</li> <li>23. 総合的なテスト</li> <li>24.                   "</li> </ol>		



科 目 名	フットサル	担当者名	松 原 裕
-------	-------	------	-------

講義の目標	フットサルはサッカーに非常によく似ていますが、決して同じスポーツではありません。フットサルの面白さをどれくらい理解する事が出来るか、これが授業の目的になります。		
講義概要	ボールコントロール、個人戦術、チーム戦術、役割分担、審判、試合運営などフットサルに関わる全ての要素を全員に体験してもらう。また、フットサルの埼玉県大会（休日開催）に出場する。選択の際には、男女・経験・技術レベルなどの条件は問わないが、ルールブックの購入や試合出場に関して個人負担がある。		
使用教材	テキスト	そのつど紹介する。	
	参考文献	そのつど紹介する。	
評価方法	毎時間の出欠席、態度、フットサル全ての要素に対する理解度などを総合して評価する。		
受講者に対する要望など	学究心、フェアプレー、コミュニケーション		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション 個人票の作成（写真 4×3cm 1枚添付） 授業実施上の諸注意</li> <li>2. 基本トレーニング ボールコントロール</li> <li>3. 基本戦術 個人戦術・チーム戦術</li> <li>4. 試合に必要な準備 競技場の設営・審判について</li> <li>5. 第1回リーグ戦</li> <li>6.       "</li> <li>7.       "</li> <li>8. リーグ戦の反省・表彰</li> <li>9. 基本トレーニング ボールコントロール</li> <li>10. 基本戦術 個人戦術・チーム戦術</li> <li>11. 試合に必要な準備 競技場の設営・審判について</li> <li>12. 総合的なテスト</li> <li>13. 前期授業の復習</li> <li>14. 第2回リーグ戦</li> <li>15.       "</li> <li>16.       "</li> <li>17.       "</li> <li>18.       "</li> <li>19.       "</li> <li>20. リーグ戦の反省・表彰</li> <li>21. 試合運営についてのテスト</li> <li>22.       "</li> <li>23.       "</li> <li>24. 総合的なテスト</li> </ol>		

科目名	インラインスケート/ウインドサーフィン	担当者名	松原 裕
-----	---------------------	------	------

講義の目標	<p>集中授業として合宿形式で行なうボードセイリング（ウインドサーフィンは商標名）と学内で行なうインラインスケート（ローラーブレードは商標名）を組み合わせた授業であるが、主体はウインドサーフィンである。それぞれの滑走する感覚の面白さをどれくらい理解する事が出来るか、これが授業の目的になります。</p>		
講義概要	<p>学内のインラインスケートは、基本的な滑走技術を中心として、滑走中のバランス感覚の養成やベア滑走、動きの可能性を拡大することを行なう。</p> <p>集中授業のウインドサーフィンは、9月に千葉県館山の獨協学園海の家で合宿形式で行ない、ボードセイリングに関する知識や技術の習得を通して、海という自然環境での安全や滑走の楽しみを体験学習する。</p> <p>選択の際には、用具の都合から男子20名、女子20名までとする。水泳未経験者でも受講は可能であるが、海での活動に支障のある疾患を持つ者は受講できない。用具は全て大学で用意している。</p>		
使用教材	テキスト	そのつど紹介する。	
	参考文献	そのつど紹介する。	
評価方法	<p>毎時間の出欠席、態度、インラインスケート・ウインドサーフィン全ての要素に対する理解度などを総合して評価する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>実習費を4月中に納入すること。学究心、団体生活への適応、公正な態度、コミュニケーション</p>		

年 間 授 業 計 画	1. オリエンテーション インラインスケート	個人票の作成（写真 4×3cm 1 枚添付） サイズ合わせ	授業実施上の諸注意
	2. "	基本滑走・ストップ	
	3. "	基本滑走・フォアクロススケーティング	
	4. "	スラローム滑走	
	5. "	回転弧のリズム変化	
	6. "	ショートターン・バックスケーティング	
	7. "	バッククロススケーティング	
	8. "	フォーメーション滑走	
	9. "	総合滑走	
	10. ウィンドサーフィンのオリエンテーション		
	11. "		
	12. "		
	13. 実習費の精算など事後処理 (後期の第2週から授業はありません)		

科 目 名	インラインスケート/アウトドアレクリエーション(海浜型)	担当者名	松 原 裕
-------	------------------------------	------	-------

講 義 の 目 標	<p>集中授業として合宿形式で行なう海辺の実習と学内で行なうインラインスケート（ローラーブレードは商標名）を組み合わせた授業であるが、主体は海辺の実習である。滑走する感覚の面白さや海辺の活動の楽しさをどれくらい理解する事が出来るか、これが授業の目的になります。</p>		
講 義 概 要	<p>学内のインラインスケートは、基本的な滑走技術を中心として、滑走中のバランス感覚の養成やペア滑走、動きの可能性を拡大することを学ぼう。</p> <p>集中授業の海浜型は、7月に新潟県佐渡の赤泊村で合宿形式で行ない、恵まれた自然を背景に、泳力別に班を編成して、スキンドайビングを中心に、カヤック、フィッシングなどを体験学習してもらう</p> <p>選択の際には、用具、施設の都合から男子 20 名、女子 20 名までとする。スキンドайビング未経験者でも受講は可能であるが、海での活動に支障のある疾患を持つ者は受講できない。用具は全て大学で用意している。</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	そのつど紹介する。	
	参 考 文 献	そのつど紹介する。	
評 価 方 法	<p>毎時間の出席、態度、インラインスケート・海辺の活動全ての要素に対する理解度などを総合して評価する。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>実習費を 4 月中に納入すること。学究心、団体生活への適応、公正な態度、コミュニケーション</p>		

年 間 授 業 計 画	1. オリエンテーション インラインスケート	個人票の作成（写真 4×3cm 1 枚添付） サイズ合わせ	授業実施上の諸注意
	2. "	基本滑走・ストップ	
	3. "	基本滑走・フォアクロススケーティング	
	4. "	スラローム滑走	
	5. "	回転弧のリズム変化	
	6. "	ショートターン・バックスケーティング	
	7. "	バッククロススケーティング	
	8. "	フォーメーション滑走	
	9. "	総合滑走	
	10. 海浜型のオリエンテーション		
	11. "		
	12. "		
	13. 実習費の精算など事後処理 (後期の第2週から授業はありません)		

科 目 名	アウトドアトレーニング/アウトドアレクリエーション(山岳型)	担当者名	松 原 裕
-------	--------------------------------	------	-------

講 義 の 目 標	<p>集中授業として合宿形式で行なう山岳の実習と学内で行なうアウトドアトレーニングを組み合わせた授業であるが、山岳型野外活動の基本的な知識と技術を紹介し、将来個人で、またグループで、安全で快適に自然を享受できる能力を身につけることが授業の目的になります。</p>		
講 義 概 要	<p>8月末から9月の初めに志賀高原で実施する集中授業に向けて、必要な知識や技術、団体行動などを学内の前期授業でトレーニングする。志賀高原では、ホテルをベースに毎日変化に富んだコースを歩き(期間中にアップダウンで延べ30~40km 歩く)自然を楽しむ。昼食を班ごとに自炊するので、個人で必ず40リットル程度のリュックサック、上下セパレート式のレインコート、トレッキングシューズを準備してもらう。炊事用具は大学で用意する。</p>		
使 用 教 材	テキスト	そのつど紹介する。	
	参考文献	そのつど紹介する。	
評 価 方 法	<p>毎時間の出欠席、態度、山岳の活動全ての要素に対する理解度などを総合して評価する。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>実習費を4月中に納入すること。4泊5日歩きとおせる自信のある者、挑戦してみたい者の受講を望む。他に、学究心、団体生活への適応、公正な態度、コミュニケーション</p>		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション 個人票の作成（写真 4×3cm 1 枚添付） 授業実施上の諸注意</li> <li>2. グループ活動</li> <li>3. 班別野外炊事打合せ</li> <li>4. 班別野外炊事（第 1 回）</li> <li>5. コンパスの使い方・地図の見方</li> <li>6. ウォークラリー</li> <li>7. 班別野外炊事打合せ</li> <li>8. 班別野外炊事（第 2 回）</li> <li>9. ウォークラリー</li> <li>10. 山岳型のオリエンテーション</li> <li>11.            "</li> <li>12.            "</li> <li>13. 報告書の編集打合せ・実習費の精算など事後処理 （後期の第 2 週から授業はありません）</li> </ol>
----------------------------	---

科 目 名	サ ッ カ ー	担当者名	松 本 光 弘
-------	---------	------	---------

講義の目標	サッカーの技術、戦術を中心に学習し、ゲームを通して体力の向上も合わせて目標とする。内容的にはより高度なレベルを追求したく、サッカーが特に得意又は好きという学生の参加を希望する。又、自主的にチームを作り活動ができるよう主体的な学習ができるようになることを最終目標とする。		
講義概要	サッカーの技術及び戦術を各時間学習し、そのまとめとして毎時間ゲームを行う。雨天時には体育館で実技を行うか、教室にてVTRを利用した講義を行う。		
使用教材	テキスト	特になし	
	参考文献	特になし	
評価方法	出席状況を重視し、平常の授業態度及び技能の進歩度を含め総合的に評価する。		
受講者に対する要望など	ゴム底のスパイクシューズ、ストッキング、ショートパンツの用意を要望する。		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション、種目分け</li> <li>2. 体力測定、技能測定、簡単なゲーム</li> <li>3. 技術練習とハーフゲーム</li> <li>4.                   "</li> <li>5.                   "</li> <li>6. ルールの解説（講義）</li> <li>7. 個人戦術とハーフゲーム</li> <li>8.                   "</li> <li>9.                   "</li> <li>10. グループ戦術とハーフゲーム</li> <li>11.                   "</li> <li>12. サッカーの歴史（講義）</li> <li>13. グループ戦術とハーフゲーム</li> <li>14.                   "</li> <li>15.                   "</li> <li>16. 特殊戦術とフルゲーム</li> <li>17.                   "</li> <li>18. グループ戦術、チーム戦術とフルゲーム</li> <li>19.                   "</li> <li>20.                   "</li> <li>21.                   "</li> <li>22.                   "</li> <li>23.                   "</li> <li>24.                   "</li> <li>25.                   "</li> <li>26.                   "</li> <li>27.                   "</li> <li>28. フルゲーム、評価</li> </ol>		



科 目 名	ゴ ル フ	担当者名	山 中 邦 夫
-------	-------	------	---------

講 義 の 目 標	ゴルフの基礎技術を実習し、あわせて基礎戦術およびルール、マナーについても理解することによって、本コースでのプレーが楽しめるレベル獲得をめざす。		
講 義 概 要	ゴルフの理論と実際の技能とのギャップを最小化できるよう、毎時の内容を工夫しながら展開する。まず、全体の動きづくりをめざし、リズムカルなスイング、さらには力強いスイングが出きよう、グループ練習、VTR を用いた分析等を用いた授業となる。		
使 用 教 材	テキスト	特になし	
	参考文献		
評 価 方 法	授業の出席状況、技能と理論のテストを総合して評価する。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	欠席をしないこと。初心者または初級者の受講を望む。登録時に、練習場のボール代(10,000円)を払込むこと。ゴルフクラブは各自で、靴はスニーカーまたはゴルフシューズを持参のこと。		

年 間 授 業 計 画	<p>1. オリエンテーション</p> <p>2. ゴルフ競技の概要 (VTR と講義)</p> <p>3. スイング、グリップ、スタンスについて (学内グラウンドで実習)</p> <p>4. スイング、グリップ、スタンスについて (学内グラウンドで実習)</p> <p>5. スイング (各種のクラブを用いて) の基本練習 ターゲットバードゴルフも行なう。</p> <p>6. スイング (各種のクラブを用いて) の基本練習 ターゲットバードゴルフも行なう。</p> <p>7. スイング (各種のクラブを用いて) の基本練習 ターゲットバードゴルフも行なう。</p> <p>8. (学外の練習場で) VTR と練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習。(主に 9 番アイアン)</p> <p>9. (学外の練習場で) VTR と練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習。( " )</p> <p>10. (学外の練習場で) VTR と練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習。( " )</p> <p>11. (学外の練習場で) VTR と練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習。(主に 7 番アイアン)</p> <p>12. (学外の練習場で) VTR と練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習。( " )</p> <p>13. (学外の練習場で) VTR と練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習。(主に 5 番アイアン)</p> <p>14. (学外の練習場で) VTR と練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習。( " )</p> <p>15. (学外の練習場で) VTR と練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習。(主にドライバー、スプーン)</p> <p>16. (学外の練習場で) VTR と練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習。( " )</p> <p>17. (学外の練習場で) VTR と練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習。( " )</p> <p>18. (学外の練習場で) VTR と練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習。(主に 9、7、5 番アイアン)</p> <p>19. (学外の練習場で) VTR と練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習。( " )</p> <p>20. (学外の練習場で) VTR と練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習。( " )</p> <p>21. 実技テスト：ショートアイアン (約 80m 先のグリーンをねらい、まっすぐ安定したボールが打てれば合格)</p> <p style="padding-left: 40px;">：ロングアイアンまたはドライバー (まっすぐ安定したボールが打てれば合格)</p> <p>22. 実技テスト：ショートアイアン (約 80m 先のグリーンをねらい、まっすぐ安定したボールが打てれば合格)</p> <p style="padding-left: 40px;">：ロングアイアンまたはドライバー (まっすぐ安定したボールが打てれば合格)</p> <p>23. 実技テスト：ショートアイアン (約 80m 先のグリーンをねらい、まっすぐ安定したボールが打てれば合格)</p> <p style="padding-left: 40px;">：ロングアイアンまたはドライバー (まっすぐ安定したボールが打てれば合格)</p> <p>24. 実技テスト：ショートアイアン (約 80m 先のグリーンをねらい、まっすぐ安定したボールが打てれば合格)</p> <p style="padding-left: 40px;">：ロングアイアンまたはドライバー (まっすぐ安定したボールが打てれば合格)</p>
----------------------------	---

科目名	ゴルフ	担当者名	吉田卓司
-----	-----	------	------

講義の目標	<p>ゴルフは、老若男女を問わず容易にできる楽しいスポーツである。基本的な正しい知識や技術が上達の近道であると考えている。ゴルフプレーを通して、社会性やルールを遵守する態度を学び、正しい余暇活動の利用について習得する。</p>		
講義概要	<p>ゴルフ競技をするにあたり、ゴルフの歴史、ゴルフ用具や服装、エチケットについて講義する。次に、基本的技術を VTR ビデオにより学習する。前期は主として、クラブの握り方、グリップとスタンスの方法を習得すると同時に正しいアドレス、正しいスイングの方法を反復練習により、フォームを作る。第 7 週までは、学内でプラスチック、ボールを使用して、打球する。第 8 週からゴルフ練習場にて、実習する。</p> <p>後期は、はじめから、ゴルフ練習場にて、実習する。雨天にかかわらず実習可能なので、直接ゴルフ場に集合すること。ショートアイアン、ミドルアイアンの打法と 1 番・ 3 番ウツドの打法を習得する。個人個人のスイングをチェック指導の予定である。</p>		
使用教材	テキスト	ナシ	
	参考文献	ナシ	
評価方法	<p>出席を重視し、普段の履修態度や運動服装等も評価の対象とする。テストは、アイアンとウツドの 2 回実施する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>運動のできる服装で出席すること。手袋を必ず購入すること（汗でグリップがすべり、クラブが飛んでしまう危険性があるため）</p>		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. ゴルフの歴史と正しいマナーについて</li> <li>3. 基本的技術の TV ビデオ鑑賞</li> <li>4. ショートアイアン(8、9、PW、SW)のスウィング (グリップ、スタンス、アドレス、スウィングの方法を習得する)</li> <li>5.(学内でプラスチック・ボールを使用して実習)</li> <li>6.(各人の個別指導) (正しいグリップ、スタンスの中、正しいアドレスの入り方、スウィングの方法)</li> <li>7.</li> <li>8. ゴルフ練習場にて実習 ショートアイアン ミドルアイアン 基本的なスウィングと打球</li> <li>9.(反復練習)</li> <li>10.(個別指導: グリップ、スタンス、アドレス、スウィングのフォームなどのチェック)</li> <li>11.</li> <li>12.</li> <li>13. ゴルフ練習場にて、実習</li> <li>14. アイアンショット(3、5、7、9、PW、SW)練習 (個別指導とフォームのチェック)</li> <li>15. 1番ウッド(ドライバー) 3番ウッド(スプーン)の打法と練習</li> <li>16.(ロングアイアン3、4)ショット練習</li> <li>17.</li> <li>18. 個人個人のスウィングをチェック指導</li> <li>19.</li> <li>20.</li> <li>21.</li> <li>22. テスト(アイアン、及びウッド)及び実習</li> <li>23.</li> <li>24.</li> </ol>
----------------------------	--

## 先生達からのメッセージ

専任教員（五十音順）

氏名 青柳多恵子（あおやぎたえこ）

所属 外国語学部共通科目

担当種目〔 本文掲載ページ番号 1～5〕

福岡県出身（北京生まれ）。学生時代はダンスと体操競技をしていました。生涯体育のお手伝いに「ソーシャルダンス」、競技ダンスの指導をクラブ顧問として、美しく楽しく踊れるダンスを体育の中でしています。趣味は茶・華道と自動車、釣り、料理と楽しい事は何でも好きです。



氏名 小俣 充（おまたみつる）

所属 外国語学部共通科目

担当種目〔 本文掲載ページ番号 19～23〕

東京都出身。

からだ：バレーボール（9人制の頃から）・テニス（10年やってるが難しい）・ボウリング（8年間のAve.178）

あたま：哲学と宗教

からだとあたま：何でも元気を出して面白く。



氏名 梶野克之（かじのかつゆき）

所属 外国語学部共通科目

担当種目〔 本文掲載ページ番号 25〕

東京都出身。中学・高校時代は短距離、跳躍種目を中心に陸上競技に親しむ。大学時代には、ラグビーフットボールに専心した。ポジションはフォワード第3列として活躍した。卒業後はコーチ・レフェリーとしてラグビー界に関与し、現在に至る。趣味は、剣道・テニス・コイン収集など。



氏名 田代力也（たしろりきや）

所属 経済学部経営学科

担当種目〔 本文掲載ページ番号 31～33〕

東京都出身。小学生の時プロ野球選手を夢み、中学でサッカーを知り、高校でサッカー部に入る。大学2年の時全国大学選手権優勝、ポジションはゴールキーパー。高校の時の都大会決勝戦の相手チームのプレーヤーが大学のチームメイトで、ある種の感動を覚えたのを記憶している。授業等でゴールキーパーは敬遠されがちであるが、世の中には少し時間をかけて努力してみると、結構好きになることがありますよ。日本サッカー協会科学研究部 O.B.



氏名 本田稔祐（ほんだとしすけ）

所属 経済学部経済学科

担当種目〔 本文掲載ページ番号 44 〕

専門は遊戯運動学で、今はアウトドアレクリエーションスポーツの研究をしています。学生時代は水泳、水球をやって国体に行けました。その後スキーを始め、年間60日位滑ってやっと1級を取りました。9年前ギランバレー症候群という病気で手足が動かなくなり、現在も走・跳はできませんが卓球・水泳・スキー・自転車などを行っています。趣味は農・漁業とドライブです。



氏名 松原 裕（まつばらゆたか）

所属 外国語学部共通科目

担当種目〔 本文掲載ページ番号 46～54 〕

茨城県水戸市生まれ、栃木県矢板市育ち、両親は四国高松出身。

1年間、オーストリアのインスブルックで研修生活といろいろな文化に触れる。学生時代はサッカー部、獨協では通常スキー、テニス、フットサルを担当する。授業は私の感覚、情報を伝達する場だと考えているので、受講生は十も一も体験の中で学び取って行ってほしい。



氏名 和田 智（わださとし）

所属 経済学部経営学科

担当種目〔 99年度海外長期研修 〕

群馬県出身。大学時代はボートをやっていました。ウィンドサーフィン・スクーバダイビング・カヤック・インラインスケートなどアウトドアスポーツが大好き。そしてそれが専門。また、カーリング・書道も好きです。最近にはラケットボールも始めました。皆さんにはレジャーの大切さを伝えたい。今興味のある事はコンピュータを利用したスポーツ学習のためのソフト作りです。



非常勤講師（五十音順）

氏名 池垣功一（いけがきこういち）

所属 外国語学部共通科目

担当種目〔 本文掲載ページ番号 7〕

東京都出身。戦後、疎開先の新潟県上越（高田）市から草加に移り住んで51年。中学・高校は陸上競技、大学では剣道部に所属した。日本に初めてスキー術を伝えたオーストリアのレルヒ少佐の銅像がたつ金谷山で覚えたスキーを生涯の友と思っている。



氏名 太田朝博（おたともしひろ）

所属 外国語学部共通科目

担当種目〔 本文掲載ページ番号 9～11〕

東京都出身。陸上競技中距離専門。とくにこれといった記録なし。趣味はアウトドアライフ、軽登山で日本百名山を可能な限り登ることを目指している。ちなみにまだ15程度である。茶道等。



氏名 小川又八朗（おがわまたはちろう）

所属 外国語学部共通科目

担当種目〔 本文掲載ページ番号 13～15〕

秋田県出身。中・高・陸上駅伝、野球、バレーボール、バスケットボールが専門。大学では陸上競技長距離をやっていた。趣味は盆栽、カード収集。日本陸上競技連盟終身第一種公認審判員。



氏名 奥野忠枝（おくのただえ）

所属 外国語学部共通科目

担当種目〔 本文掲載ページ番号 17〕

宮城県出身。奥野正恭・忠枝レクリエーション研究所主宰。研究テーマは世界の民踊。現在、中国とフィリピンを中心に研究中。趣味は旅行、料理、そして食べること。



氏名 勝瀬 武（かつせたけし）

所属 経済学部経済学科

担当種目〔 本文掲載ページ番号 27〕

徳島県出身。バスケットボールが専門。最近 NBA の影響か、ファッションから入ってくる人が多いが、大いに結構。趣味は高齢になっても続けられるスキー・ゴルフ・テニス・etc である。



氏名 加藤雅子（かとうまさこ）

所属 外国語学部共通科目

担当種目〔 本文掲載ページ番号 29〕

3才からフィギュアスケートを始め、ずっと続けた甲斐あってオリンピックにも出場したことがあります。インラインスケート歴はまだ浅いですが、一緒に楽しみながらうまくいける人達が集まってくれることを望みます。日本スケート連盟強化コーチ。



氏名 田中茂宏（たなかしげひろ）

所属 外国語学部共通科目

担当種目〔 本文掲載ページ番号 34〕

兵庫県出身。スポーツに、Skill・Creativity・Artistry・Elegance・Spectacle を求める人と1年を過ごしたい。自主性、積極性にあふれる学生の受講を期待する。

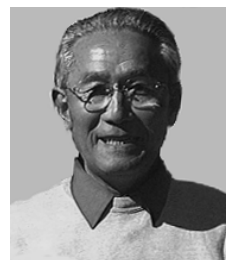


氏名 野口昭彦（のぐちあきひこ）

所属 外国語学部共通科目

担当種目〔 本文掲載ページ番号 36〕

熊本県出身。学生時代は陸上競技のハードルをやっていた。現在はテニス、ゴルフ、スキー。スキーは年間60日くらい滑る。ゴルフは年間30日位コースに行く。テニスは週4日位。趣味は野外活動で、夏はモーターボートでつりに行くなど多趣味です。



氏名 萩野元祐（はぎのもとすけ）

所属 外国語学部共通科目

担当種目〔 本文掲載ページ番号 38〕

東京都出身。専門は柔道（六段）、その他にウェイトトレーニングを専門としている。ソフトボールは見るのもやるのも好きな種目。



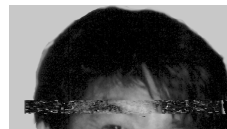


氏名 萩原武久（はぎわらたけひさ）

所属 経済学部経営学科

担当種目〔 本文掲載ページ番号 40〕

山梨県出身。サッカーを専門とする。趣味はスポーツをすること。特に子供たちとサッカーをしている時はこの上なく楽しい。文部大臣認定公認サッカーA級コーチ。



氏名 檜山 康（ひやまやすし）

所属 外国語学部共通科目

担当種目〔 本文掲載ページ番号 42〕

サッカーを20年近くやっていますが、未だに飽きていません。サッカー大好き人間、どうぞ集まって下さい。



氏名 松本光弘（まつもとみつひろ）

所属 経済学部経営学科

担当種目〔 本文掲載ページ番号 56〕

埼玉県出身。専門はサッカーコーチング、他にスキーと登山。（財）日本サッカー協会理事（規律フェアプレー委員会委員長）



氏名 山中邦夫（やまなかくにょ）

所属 経済学部経営学科

担当種目〔 本文掲載ページ番号 57〕

滋賀県出身。スポーツコーチ論（サッカー）を専門とする。選手の技術・戦術・体力向上に関する実験的研究を課題としている。最近では、ゴルフボールも、しぶとく追っかけている。



氏名 吉田卓司（よしだたくじ）

所属 経済学部経済学科

担当種目〔 本文掲載ページ番号 59〕

東京都出身。学生時代はラグビーをやっていた。今は栃木県でラグビー安全対策の指導をしている。運動中の心肺機能について研究中。趣味はゴルフ、スキー、テニス、コイン収集、水彩画、書道（師範）など多趣味である。関東フットボール協会公認レフェリー。

